

富田高慶著「報徳記一二宮尊徳先生伝記」岩波文庫、岩波書店 1933 年 7 月 10 日刊を読む

報徳記

- (1) 鶏鳴^{けいめい}に起^{おこ}て遠山^{とほやま}に至^{いた}り
- (2) 或^{しば}は柴^{しば}を刈^ひり薪^{ひき}を伐^ひり之^{ひき}を鬻^ひぎ
- (3) 夜^なは繩^なを索^わひ草鞋^{わらぢ}を作^{つく}り
- (4) 寸陰^{をし}を惜^みみ身^みを勞^{らう}し心^{こころ}を盡^{つく}し母^{はは}の心^{こころ}を安^{やす}んじ
- (5) 二弟^{ふたでい}を養^{やしな}ふこと^{こと}にのみ勞^{らう}苦^くせり。
- (6) 而^{しか}して採薪^{さいしん}の住返^{すまへ}にも大學^{だいがく}の書^{しよ}を懷^{いだ}にして
- (7) 途中^{とちゆう}歩^{あゆ}みながら之^{これ}を誦^{しょう}し少^{せう}しも怠^{おこたら}ず。
- (8) 是^{こゝ}は先生^{せいしん}聖賢^{がく}の學^{がく}の初^{はじめて}なり。
- (9) 道路^{どうろ}高音^{こうおん}にこれ^{これ}を誦^{しょう}讀^{どく}するが故^{ゆゑ}に
- (10) 人々^{ひとびと}怪^{あやし}み狂兒^{きやうじ}を似^にて之^{これ}を目^めするものあり。

[コメント]

日本における伝記中の伝記と高い評価を得ていた二宮尊徳先生の「報徳記」がようやく 2011 年春に復刊された。ここに書き抜かせて頂いた文章は全国の小学校、中学校にある薪を背負い大学の書を読む二宮翁の様子を書き記したもの。日本の教育の原点ともいえる文章。少し読みにくいかも知れないが、岩波書店が損得抜きで復刊してくれたこの岩波文庫版の「報徳記」にもっともっと親しませて頂くべきと考える。困難に打ち克つ精神を「報徳記」から学びたい。

— 2011 年 9 月 29 日 林 明夫記 —